

ワンポイントアドバイス

利用履歴を家計の改善に生かす

節約アドバイザー／ファイナンシャルプランナー
丸山 晴美氏



消費税が5%から8%となり、また物価も上昇しつつある中で注目されているのが、現金以外の方法での支払いです。例えば、電子マネーやクレジットカード、デビットカードといった電子決済では、利用額に応じたポイントサービスがつくものがほとんどなので、増税分を少しでもカバーしたいという消費者の利用が増えています。

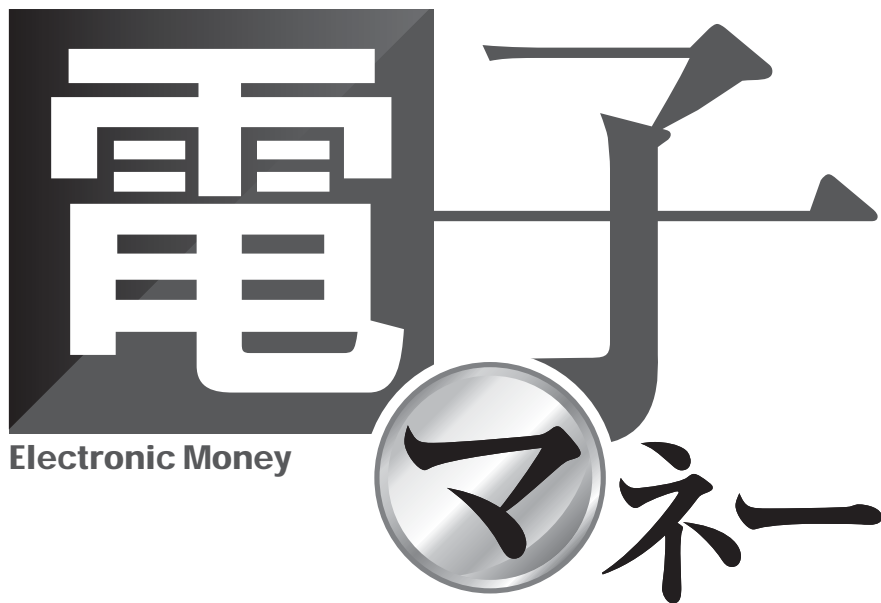
またコンビニエンスストアやスーパーでの食品や日用品といった少額の購入は電子マネー、家電製品などの高額商品はクレジットカードといった使い分けも進んでいます。その理由としては、レジでの支払いをスマートにできるという点が挙げられるでしょう。今回の消費増税で1円単位の会計が増えたことで、支払いに時間を取ってしまいがちです。しかし電子マネーで支払うと、サイン不要でタッチするだけなので、会計の時間も短縮されるだけでなく、財布の中もすっきりします。

電子マネーを含む電子決済の特長として、利用履歴を見ることが出来ます。そのため、簡単なおこづかい帳代わりにもあり、レシートが出ない買い物であっても利用履歴を確認することで、家計簿への転記も楽になり、使途不明金を減らす効果が期待できます。

手軽なだけでなく、利用額に応じてポイント還元を受けられるのも魅力。還元率を引き上げるキャンペーンを実施したり、対象商品の購入でボーナスポイントが付与したりするなど、よりお得感を高めたサービスも多い。ポストペイ型の電子マネーは、ポイント還元

多彩にそろった電子マネーから自分に合ったものを選ぶためには、普段の生活パターンを踏まえて検討することがポイントになる。通勤経路や頻繁に買い物する店舗などを考えて、利用しやすい電子マネーを選択したい。

手軽！便利！お得！



電子マネーの利用が広がっている。読み取り端末にタッチするだけで支払いができるなど利便性に優れ、日常的な決済手段として定着しつつある。小銭不要の手軽さに加え、利用額に応じてポイントがたまるお得感も魅力。普段の買い物傾向などを踏まえて利用しやすい電子マネーを選び、手軽に・便利に・お得に活用したい。

最近ではコンビニエンスストアやGMSのほか、家電量販店やドラッグストア、ガソリンスタンド、ファストフード店、ファミリーレストランなど、電子マネーを利用できる店舗が大幅に広がっている。財布に現金が入っていないなくても、電子マネーさえあれば困ることなく1日を過ごせるということも過言ではない。

消費税率の引き上げ分を1円単位で転嫁するため、コインランドリーや時間貸し駐車場なども電子マネーへの対応が進む見込みだ。交通系の電子マネーは昨年3月から全国相互利用が始まり、1枚のICカードで

電子マネーの大きな魅力は、代金を支払う際の手間を解消できる点にある。現金で支払う場合、紙幣や小銭を財布から取り出し、釣銭があれば受け取る必要がある。小銭を数えるのに時間がかかったり、小銭が多くて財布が膨れ上がってしまうことも少なくない。

電子マネーなら読み取り端末にタッチするだけで支払いが完了。とてもスピーディーでスマートだ。クレジットカードのように、署名や暗証番号の入力など本人確認の手続きも必要ない。

**迅速・スマートに決済
還元率高めるサービスも**

率の高いクレジットカードを選ぶと、よりお得にポイントをとめられる。ためたポイントは電子マネーやマイルなどに交換できるので賢く活用したい。

全国の主要なバスや鉄道を利用できるようなった。流通業を中心にグループを超えて電子マネーの相互利用を模索する動きも活発化しており、利便性はさらに高まりそうだ。

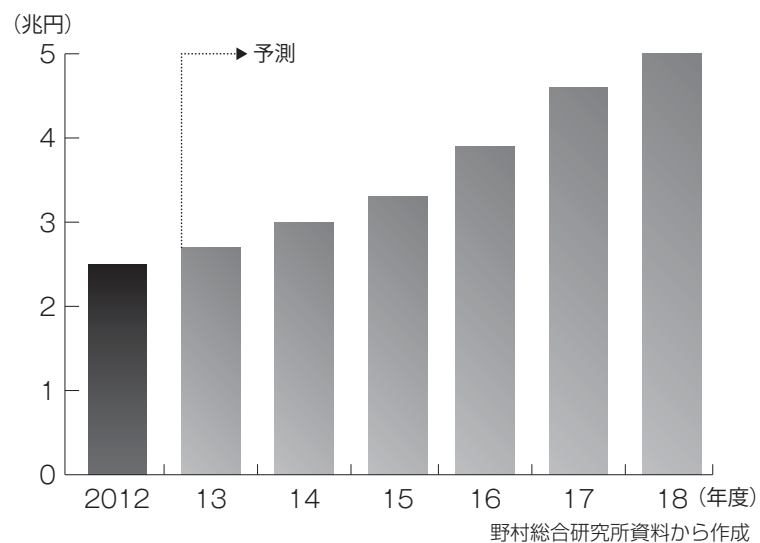
**大きく広がる利用シーン
決済総額の増加傾向続く**

一般的に電子マネーとは、電子化したお金の情報をやり取りして決済するサービスを指す。レジなどに設置された読み取り端末に、ICカードや「おサイフケータイ」を「ピッ」とタッチして代金を支払う例が代表的だ。利便性に優れており、利用者が急増している。

日本では2億枚を超える電子マネーが発行され、決済総額は増加傾向にある。最近では決済ごとの金額も増え、1000円を超える支払いに電子マネーを利用する例も多くなってきた。電子マネー市場は2018年度に5兆円に達するとの予測もあり、普及・利用はさらに拡大していきそうだ。

電子マネーは2種類に大別できる。あらかじめまとまった金額をチャージ（入金）して使う「前払い式（プリペイド型）」と、一定期間の利用額を後日まとめてクレジットカードで支払う「後払い式（ポストペイ型）」だ。

電子マネー市場の実績と予測



普段の買い物傾向など踏まえて選択を